

静岡 第16隊

副長 菅谷妙子

初めて参加させていただいたジャンボリーは、長期キャンプという認識しかなかった私にとって戸惑いと驚きの連続の七日間でした。経験する全てが初体験且つ五感を刺激することばかり。ジャンボリーを終えて強く心に残ることは「スカウトの成長」と「自らを振り返る機会」の二つです。

スカウト達は、初日の設営の疲れが取れる間もなく、不自由でハードなスケジュールの生活が始まりました。最初は、役割分担がうまくいかずに、決められた時間を守ることができない状態でしたが、素直さと柔軟な適応力で自らの役目を全うしようとする努力が見られ、徐々に思い思いの楽しみ方を見付けていく様子に確かな成長を感じました。他隊や海外のスカウトとの交流や技術を競うプログラム、盛り上がった大集会など、ジャンボリーという非日常で経験した様々な出来事は、スカウト達の視野を広げ、やり遂げた自信とともに心に深く特別な想いを残し、これからの人生で困難に遭遇した時に、前に踏み出す原動力となることでしょう。

私は、リーダーとしての経験も浅く、秀でた技術もありませんので、地元から遠く離れた場所で長期野営をするスカウトの保護者の気持ちになり、病気や怪我無く全員を無事に連れて戻ることが第一の目標としていました。経験の無い事を準備することの難しさとスカウトの安全への重責を感じつつ事前準備にあたりましたが、実際には予測通りにいかず、周りの方の前向きな思考と知恵、たくさんの親切に助けられました。ジャンボリー期間中に受けた「親切」の多さは、ボーイスカウト活動に携わる方々の意識の高さを物語るものです。私たちは、他者の反応を恐れ、無関心を装いがちですが、親切や良い行いは、した人とされた人の二者だけに関わるものでなく、その場にいた人を感動させ、清々しい気持ちにさせてくれる力を持つものだと改めて気付かされ、我が身を振り返る機会となりました。全員が無事に戻ることができたことに感謝し、ジャンボリー期間中に受けた「親切」は、自分が出れることで、他の誰かにお返ししていきたいと思っています。

参加する全ての人を成長させてくれる可能性があるジャンボリー。是非たくさんの人に経験してもらえたらと思います。もしも、次に参加する機会があるとしたら、今回の経験を活かして準備を行い、スカウトの成長を楽しみに、少しでも自らも楽しむ余裕を持ちたいものです。

1. 大会本部・サブキャンプ・派遣団本部へ (提案)

・大会ハンドブックは事前配布してもらいたい。諸事情があったにしても、当日では遅すぎる。

・持参食材（調味料）が分かりにくい。クックブックにはおおよその使用量を提示すると書かれていたが、書かれていなかったように思う。また、配給調味料（味噌）は不足した。（40人で2^{kg}と書かれていたが、28人で1^{kg}の配給だった。足りないのでは？と言ったが追加してもらえず）不足を見越して持参するのは無駄になるので、配給調味料も明示していただきたい。